

(様式2)

校 種	小・中 どちらかに○	学校番号	8	学校名	宇都宮市立 昭和 小学校
-----	---------------	------	---	-----	--------------

令和2（2020）年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・国語では、学年差があるものの、市の平均と同程度、または上回っており、おおむね学習内容が身につけていると言える。内容によっては、下回っている学年もあり、学年差が見られる。「書く能力」の市の平均は2学年で上回っているが、1学年については市の平均を3%下回っていた。「話すこと・聞く能力」はすべての学年で、市とほぼ同程度、または上回っていた。「読む能力」は全ての学年で2%～6%上回っていた。しかし、「言語についての知識・理解・技能」では、1つの学年で市の平均を若干下回っていた。問題の内容別に見ると、「資料を活用して書く」や「複数の条件から資料を整理して書く」など、条件を与えられた中で自分の考えを表現することに苦手意識を感じている児童もいるので、国語の学習だけでなく、他教科の学習とも連携を図りながら、資料を適切に取り取り、資料を活用して考えを文章化する力を育てていきたい。「物語の内容を読み取る」では、比較的正答率の高い学年が多かったが、「説明文の読み取り」や「文章の要点や細かい点に注意してよく読み、言葉を引用する」などさらに踏み込んだ質問については、学年によって正答率のばらつきがあった。また、「敬語」や「慣用句」「ローマ字」などの「言語事項」については、正答率に個人差があった。今後、重点的に定着を図っていく必要がある。
- ・算数では、正答率が、市の平均より3%～7%上回っている学年や内容があるものの、内容によっては学年差や個人差が出てきている。「数量や図形についての知識・理解」については、1学年は市の平均を上回っているが、2学年は下回っている。「数量や図形についての技能」においては、どの学年も市の平均を上回っているか、同等である。正答率は高いが、個人差が見られる問題もある。「数学的な考え方」では、2学年が市の平均を上回っているが、1学年は下回っている。領域別に見ると、「数と計算」は他の領域に比べて高かった。学力アップ月間や家庭学習で、パワーアップシートやドリルなどで繰り返し復習をした結果である。また、少人数指導や習熟度別学習も効果を上げていると思われる。また、昨年少かった「図形」はどの学年も市の平均と同等か上回っており、操作的・体験的な学習を重視し、継続的に指導してきたことが効果を上げていると考える。今後も、学年の実態に応じた学習形態や教材を工夫し、定着を図っていく必要があるとともに、単元によっては習熟度学習の形態を取り入れ、活用問題など発展的な問題を取り入れるなど上位の児童を伸ばす指導も取り入れていきたい。
- ・社会では、観点別も領域別でもほとんど市の平均を上回っている。領域別の「農業や水産業」や「工業生産」や「日本の歴史」においては市の平均を大きく上回っている。一方で「情報産業や情報化社会」では、大きく下回っている。児童の興味関心に左右されるところもあるが、情報に関してはこれからの社会で大きな役割を果たしていく内容なので、宿題でプリントを出すなど、再度復習する必要がある。そして、今後も資料を活用する学習や体験的な学習を重視し、定着を図ってきたい。

(2) 国・県・市の児童生徒質問用紙・学校質問紙などから

- ・「勉強が好きですか」という質問に対する肯定的な回答の割合は、学年によって差が見られるが、下学年で約88%以上、中学年で86%以上、高学年でも79%以上と望ましい傾向と言える。また、「学校の授業がわかるか」という質問に対する肯定的な回答の割合は全ての学年で92%以上であり、市の傾向を全て上回っていた。
- ・授業への取り組み（望ましい学習習慣）については、「先生や友達の話す、最後まできちんと聞いている」「授業を集中して受けている」に対する肯定的回答はほとんどの学年で、90%以上と他の質問に比べて高かったが、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」に対する肯定的回答は他と比べ低く、市の平均は上回っているが69%の学年もあった。学習に対する気持ちや態度についての質問に対する肯定割合も学年差はあるが、ほとんどの項目で市の平均より高く、「自分から進んで学習している」については、ほとんどの学年で80%以上であり、学習に対する意識の高まりが感じられる。
- ・学校の授業以外の学習時間は、全体的には市の平均と同様、または高かった。また、学校全体で学力アップ月間を設けて3年目となるが、学校全体での時間や内容の高まりを感じる。家庭学習についての質問では、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」の肯定割合はほとんどの学年で80%を超えて高かったが、2学年で市の平均を下回っているため、その取り組みについては、これから改善が必要である。「テストで間違

えた問題は、もう一度やり直している」では、どの学年も市の平均より高く、6年生に至っては、94.9%と市の平均を20%以上上回っていた。「授業で習ったことを復習している」「その日のめあてを決めて家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合が全体的に昨年度より上がっていた。しかし、個人差は大きく、全く家庭学習をしていないと答える児童も少なからずいる。また、どの質問も学年差が見られた。発達段階に応じて取り組みは違ったり、時間については学年差があったりするが、学校全体で強化月間や目標を設けたり、家庭への啓発を続けたりするなどして、学校全体で宿題や家庭学習への取り組みを工夫し、基礎基本の定着を図ってきたい。

(3) 授業等への取組状況から

- ・全体的に学習のきまりや進め方が身に付き、意欲的に課題に取り組むことができる。また、ペアやグループなどでの学び合いを取り入れた学習を意識して行った結果、自分の考えを広めたり、深めたりできるようになり、学習の楽しさを感じている児童も増えた。また、めあてに吹き出しを入れて、十分満足な様子を意識しながら学習に取り組むようになったことで、より高い目標に向かって努力する児童が増えた。昨年度は振り返りの時間を十分確保することで、学びの質を上げることができた。一方で、学習内容を活用した問題では苦手意識を感じている児童もまだ多い。このように、思考力・表現力・コミュニケーション力は育ってきてはいるが、まだ個人差が大きい。
- ・自分の考えを表現する力は付いてきており、いろいろな方法を取り入れて伝える力は、高まってきている。しかし、視点をもって聞いたり、根拠を明確にして話したりする力はまだ十分ではない。

2 今年度の重点目標

学校課題に関する重点目標

- ◎日々の授業において認め励ます指導に努めるとともに、振り返りの学習活動における自己評価や相互評価を工夫し、児童が自らのよさへの自覚を深められるようにする。
- ◎じっくりタイムや家庭学習を通して復習する機会を設け、基礎・基本の定着を図る。〈※〉
- ◎学びに向かう力や協働して課題に取り組む態度を身に付けられるよう、児童が自ら考え分かりやすく表現できる学習活動を重視する。〈※〉
- ◎「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業研究会や授業を相互に見合う機会を充実し、指導力の向上と新学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践に努める。〈※〉
- ◎問題解決力などの学習の基盤となる資質・能力を、教科横断的な視点で各教科等の関連付けを図るカリキュラム・マネジメントを通して育成する。〈※〉

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★「令和2年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

(1) 授業づくり及び教師の指導・支援の工夫（通年）

- ★□○日々の授業においても、認め励ます指導に努めるとともに、振り返りの学習活動における自己評価や相互評価を工夫し、児童が自他のよさへの認識を深められ、自信をもって学習に取り組めるようにする。
 - 単元（題材）の目標を十分に分析した上で、本時レベルで期待したい児童の具体的な姿を想定してねらいの焦点化を図り、授業の始めに教師と児童が共通の認識をもてるようにする。
- ★□○学びに向かう力や協働して課題に取り組む態度を身に付けられるように「ペア」「小グループ」「全体」など、児童の実態やねらいに応じて学習形態を工夫し、児童同士で情報交換をしたり教え合ったりしながら、互いに認め合い、共に伸びられるようにする。また、児童が自ら分かりやすく表現できる学習活動を重視する。
 - ・主体的に学ぶ児童を育成するため、児童が見通しをもって意欲的に学習に参加し、継続できるよう、授業の流れや進行状況を児童が認識しやすいように示し、学習活動のパターン化やスモールステップ化などの工夫をする。
 - ・既習事項や学習の流れを掲示したり、補助資料やワークシートなどを工夫したり、必要に応じて個別に支援したりして、どの児童も学習活動に意欲的に取り組めるよう支援する。
- ★知識や技能を確実に身に付けられるよう、分かる授業の展開、児童の実態に即した個に応じた指導、各授業や単元等のまとめ学習の充実を図る。
 - 問題解決力などの学習基盤となる資質・能力を、教科横断的な視点で各教科等の関連付けを図るカリキュラム・マネジメントを通して育成する。

- 基本的な学習態度や学習技能を身に付けるため、月ごとに全校共通で学習のきまりを決め、また、その目標を学級の実態に応じて、児童が自分たちで具体化することで意識を高め、全校共通で学習習慣の徹底を図っていく。
- 授業研究会や授業を相互に見合う機会を設け、それぞれの授業づくりのポイントやコツを情報共有したり、児童の学びの事実を見取り、それに基づいた授業研究を通して、教師間で学び合ったりすることで、授業力の向上と新学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践に努める。

(2) 主体的な家庭学習の習慣作り（通年）

- ・継続的・計画的に適切な分量・内容の宿題を出し、保護者とも連携しながら、家庭学習の習慣を身に付けられるようにする。
- 家庭での自主学習を奨励する。学年の実態に応じた指導・支援を行い、自分に必要な学習について、自分で計画を立て、主体的に家庭学習が進められるようにする。また、参考になるノートを掲示するなどして、内容の高まりが見られるような工夫をする。
- ★□学校全体の学力アップ月間を年2回設け、計算力や漢字力アップなどのポイントを絞って基礎学力アップを図る。また、家庭学習の記録を活用して、家庭学習の充実を呼びかけたりする。

(3) 各教科における基礎・基本の確実な定着（通年）

- ・4～6学年全学級の算数科および6学年国語科において少人数・習熟度別学習・TTを導入する。児童の実態や単元のねらい、学習効果等を考慮して形態を工夫し、かがやきルームとも連携して計画的に学習を進める。
- 基礎・基本を確実に定着させるための学習の時間（じっくりタイム）を日課表に位置付けて、パワーアップシートなども活用し基礎的な学習内容の復習を行う。また、各学力テストを活用し、学年の課題を明確にし、それらの習得に向けた学習も取り入れる。
- 日常の授業において、児童が自主的かつ意欲的に学習できるよう配慮しながら指導支援し、漢字や計算などの基礎的な学習内容の定着を図る。
- ・読書タイムを日課表に位置付け、読書を奨励するとともに、親子読書の推進を図る。
- ・話の聞き方・発表の仕方・ノートの取り方など、基本的な学習態度や技能を身に付けさせ、望ましい学習習慣づくりに努める。
- ・問題解決のために必要な情報の収集・選択とその活用の仕方について支援し、自力解決する力を育てる。

(4) 豊かな感性をはぐくむ体験的な学習の推進、家庭・地域・関係機関との連携・協力

- ・探究的に学ぶ児童を育成するため、体験活動を重視し、その中で、ボランティアティーチャーを積極的に利用し、専門家の卓越した指導を受けさせ、学習活動をより深いものとする。
- 地域や公共機関との連携により、インターンシップ（6学年）など、地域の施設を利用した学習を展開する。（八幡山、地域の商店や事業所、公共施設など）
- ★授業や学習支援の充実のため、学校自由参観日（11月、12月）を設ける。また、学校の情報を、学校だより・学年だよりやホームページ等で計画的・継続的に発信・提供する。（年間）
- ★保護者に呼びかけ、早寝早起きの習慣づくりやテレビ・ゲーム、スマホ・ケータイの使い方等の家庭での約束づくりを奨励する。（4月・2月保護者会等）

(5) 確かな学力をはぐくむための指導力向上と授業改善

- ★□「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業研究会や1人1授業公開等の授業を相互に見合う機会を充実し、指導力の向上と新学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践に努める。
- ・各種学力調査の結果を職員研修の中で分析・活用し、学習に係る課題等を明らかにした上で共通理解を図り学力向上に向けた実効性の高い取組の共通実践に努める。

(6) 学習指導要領全面実施に向けての評価のあり方についての研修

- ・各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、評価の場面や評価の方法についての研修を行う。
- ・これまでの評価と一体となるものと新たな視点をもって評価するものについて情報共有したり、共通理解したりする。特に「学びに向かう力、人間性等」については、これまでの関心・意欲だけでなく、粘り強く取り組む態度や自ら学習を調整しようとする姿などの評価について十分理解できるようにする。